

農村16きっぷ

集落に
伝える
ありがとう。

僕と梨の思い出

志谷日記

笑顔溢れるフォトアルバム

ボランティアコレクション2019

魅力的な人に会いに行こう

集落インタビュー

スタッフ紹介

学生図鑑

もくじ

農村16きっぷとは	04
農村で何するの	06
【特集】志谷日記	08
【写真集】ボランティアコレクション2019	10
【特集】集落へ伝えるありがとう	12
集落逆インタビュー	14
集落インタビュー	15
学生図鑑	18
集落紹介	20
鳥取県内の農山村の皆様へ	24
編集後記	25

意外とおしゃべり好きだったし、
草の匂いも嫌いじゃなかった。
夏は海派だったけど、山も悪くなかった。
知らない自分に会いに行こう！



表紙：南部町清水川



農村16きっぷ

～学生と集落をツナグ～

農村16きっぷはNPO法人学生人材バンク内の学生ボランティア団体です。ボランティア活動はどのような仕組みで運営されているのか、また、学生と集落をどうやって繋いでいるのかを紹介します。

〈概要〉

鳥取県の多くの集落では、高齢化や人口減少による担い手不足が問題となつています。自力で農業や地域の行事の運営を行うのが困難となり、廃村となった集落もあります。一方で、農業や地域交流に興味があるが、その機会がない学生がほとんどです。農学部であっても、在学中に一度も農業をすることなく卒業する学生もいます。そこで、農村16きっぷはボランティアを通して、人手を必要とする集落と農作業や地域交流をしたい学生をつなげる活動をしています。

〈設立したきっかけ〉

2002年、当時大学生だった中川玄洋氏が、学生に社会人と交流することの楽しさやその機会を提供したいという思いに加え、学生の学費意欲を向上させたいという思いから学生人材バンクを設立しました。その活動の一つとして鳥取県内の集落で農業ボランティアを始めました。それが農村16きっぷ設立のきっかけです。

〈ボランティア派遣のしくみ〉

当団体の活動は鳥取県からの委託事業として成り立っています。学生は大きく分けて三つの過程を経てボランティアに派遣されます。まず、集落が市町村の役場にボランティア要請をします。次に鳥取県が申請内容を受理し、当団体にボランティア派遣を依頼します。最後に、学生間でボランティア派遣を募集・調整し集落に派遣します。この際にかかる移動費や道具にかかる費用は鳥取県からの委託金でまかなわれています。このサイクルで設立から17年間、継続的に学生を農村へ派遣しています。その取り組みが行政に認められこの活動は委託事業として成り立っています。

〈昨年度の取り組み〉

農村16きっぷは鳥取大学の学生によって構成されており、日々の活動内容は週に一度の会議、ボランティアグループ活動があります。ボランティアなどの農作業には田植えや草刈り、獣防護柵設置など多岐にわたります。伝統文化やイベントの補助など多岐にわたります。さらに昨年度は今年までのボランティア参加者の募集方法を見直しました。それは、「ツミキヤリ」というメール配信サイトの活用とツイッターによる呼びかけを並行して行ったことです。この背景には、メール利用者が減少していることや作業内容をより分かりやすく伝えるためなどがあります。また、「食と農林漁業大学生アワード」への出場を果たしました。本大会は、食と農林漁業に関する学生団体のプレゼンコンテストです。ここでは、集落との深い関わりや、活動を通して学生が卒業後に集落へ移住したことを発表しました。全国の方の応援があったからです。本当は、たくさんの方の応援があったからです。



(↑コンテスト発表の様子)

〈会議について〉

農村16きっぷは毎週水曜日に学生だけの会議をしています。平日は大学で勉強して、休日になると有り余る体力を農村のボランティアに注いでいます。この週に一度の会議では、申請のあったボランティアの予定確認や参加メンバーの調整、だれが集落に連絡をするのかなどを決めています。また、ボランティアで感じた反省点などここで共有することとで次に活かしています。会議の楽しみの一つとして作業の中で楽しかったことやその集落ならではの美味しい料理などを教えあうことがあります。さらに、会議の中で三つのグループに分かれて話し合う時間があります。ここでは、グループごとに活動内容の反省や取り組み状況の確認をしています。会議の最後には集落からの連絡内容やグループ活動の進捗などを全体で共有します。その上で休日のボランティアに備えます。

〈グループ活動〉

地域との繋がりを深めることや活動の幅を広げるために三つのグループ活動に取り組んでいます。ここではその紹介をします。

〈販売班〉

鳥取県の集落の魅力や私たちの活動を広く知ってもらうために農作物の加工品の販売に取り組んでいます。ボランティアにより交流のある集落からいただいたものを加工して販売しています。たとえば、自家製の梅ジュースや、田植え・稲刈りをお手伝いした古代米です。これらは学祭や地域のイベントなどで販売しています。また、東京や岡山などの県外のイベントでも出店しています。

〈広報班〉

私たちは、当団体の活動内容を発信や年間報告をするために、毎年パンフレットを制作しています。これらは作りに文章を考えたデザインや写真を取り込んだり、インタビューを行ったりして行っています。パンフレットは役場や県内の観光地に置かせていただくことで、当団体の知名度向上を目指しています。また、集落の方との交流のきっかけにもなっています。

〈交流班〉

集落の方との交流や、学生同士の親睦を深めるために、毎年夏と冬に「村咲ク」を企画しています。そこでは、集落の方に郷土料理の作り方を教わったり、民泊を体験したりと非日常的な楽しさを味わうことができます。学生同士の普段見られない一面を知ることができたり、ボランティアが集落の魅力に気づけたりできます。



(↑田植えの様子)



(↑会議で参加メンバーを調整する様子)

〈休日〉

〈平日〉

(↑草集めの様子)



(↑東京販売の様子)



(↑本誌の紹介をする様子)



(↑村咲クの様子)

9月 農村でなにをするの？

交流会

作業が終わると、楽しい交流会！ご飯を食べながら集落の方とおしゃべりをします。いろいろな世代の方と盛り上がれば、思い出に残るボランティアになること間違いなし！



もちつき

新米を使ったもちつきは年末の恒例行事。昔ながらの道具、杵と臼を使います。ヨモギやあんこ、きなこのつきたてのおもちを食べて、新年を迎える準備はバッチリ！



防護柵設置

イノシシやシカなどから作物を守るため、田畑を柵で囲んでいく作業。杭を打つハンマーや電気柵の扱いには気を付けて！



水路清掃

農業に使う水路を詰まらせる土砂や石、枯葉などをフォークやスコップで取り除く作業。水路がきれいになると気持ちもスッキリ。



収穫いろいろ

農村では一年を通して様々な作物を収穫することができます。竹林が荒れることを防ぐためのタケノコ掘りイベントや、木に実る梅をもぎ取る梅収穫、手作業での稲刈りなどがあります。お土産として頂けるだけでなく、穫りたての野菜で作る旬の料理も楽しめます。

TAKENOKO



YASAI



OKOME



田植え

一列に並んで手植えをします。体を起こし、あたりを見渡せば、そこには水面に映る青空と一面を埋め尽くす苗...日本人なら一度は体験したい伝統行事。



草刈り

農作物が日光や雨を浴びてすくすく育つように、雑草もいたるところで増えていきます。草刈り機を使って雑草を刈り、美しい農村風景を保つことも集落の大切な営みのひとつ。



志谷日記

志谷集落で出会った梨との思い出



▲緑色のエリアが八頭郡

▲梨の袋掛け

7月6日 梨の袋掛け・摘果

朝6時過ぎ、少し肌寒く太陽が元気に顔を出す中、志谷集落へと向かいました。志谷集落は、鳥取県の東部に位置する八頭郡にあります。

この集落内は、右を見ても左を見ても柿園で、18世帯、約40人が暮らす穏やかで静かな集落。のんびりと過ごせます。集落の方は初対面の僕に、気さくに話しかけてくださり居心地がよかったです。

午前中は梨の袋掛けをしました。梨の実1つずつに手作業で袋を掛けていきます。なぜ袋掛けをするのかというと、病気や害虫からの被害を防ぐためです。袋を掛けることで農薬を使う量も減らすことが出来ます。また、梨の表面のきめが細くなるという効果もあります。ここ志谷では、梨の袋掛けを5月の連休と6月に2回している。朝に梨園を見たとき、梨は小さな白い袋で包まれていました。僕たちが手伝った2回目の袋掛けでは黄色の袋を掛けました。袋掛けをする梨は、全部で千個以上もあるため午前中だけでは終わ

らず、夕方までかかりました。枝が複雑に入り組んだところでは袋掛けをするのが難しく、時間がかかります。この作業の間、ずっと腕をあげたままだったので翌日には、腕が痛くなりました。

午後からは梨の袋掛けと同時に摘果を行いました。1か所の花芽に梨を2つ実らせているところが、そこを1つに絞るという作業です。なぜ、摘果を行うのかというと1つの実に栄養を集中させるためです。そうすることで、2つの小さな梨ではなく1つの大きな梨に育ちます。

梨園には、木の枝を支えるためにワイヤーが張り巡らされています。僕は、背が高くかがまないといけない場所が多かったので窮屈に感じました。この姿勢のまま朝から夕方まで作業が続くのは、本当に大変なことです。実際に袋掛けをしてみても美味しい梨を作るためには大変な労力が必要であることを知りました。1日の作業が終わり、遠くから梨園を見ると小さく小さい実が成長して黄色く、大きくなったように見え、達成感で満たされました。

10月26日 梨、柿の収穫

今日の作業内容は、柿の収穫。

前回は不安でいっぱいでしたが、今回は志谷集落に行くのが2回目、前回袋掛けをした梨を見られるかもしれないという期待を持ちながら向かいました。

午前中に柿の収穫を終えて、お昼休憩を取っていると、午後から梨の収穫だと聞きました。前回袋掛けした梨が気がかりだったため、はやる気持ちを抑え梨園に向かいました。

梨園に到着すると、梨の木には黄色の袋がたくさんついていました。近づくとも目で袋いっぱい梨が大きく育っているのが分かり、嬉しくなりました。

梨の収穫は、はさみでするものと思っていました。梨の軸を折るよりに持ち上げるだけで収穫できると聞き、とても驚きました。軸を折るだけと、とても簡単で作業がはかどりました。夕方になると、梨園の入り口には梨で埋まるコンテナを積み重ねた列ができていました。それを



▲美味しそうに実る柿



▲梨の収穫



▲手作り梨カレー

集落の皆様へ

袋掛けをし、その後大きく育った梨を収穫したことで作物を育てる楽しさと大変さを味わうことが出来ました。

また、お昼には集落の方が作った美味しい梨カレーを味わうことも出来ました。梨カレーは、梨の果汁が入っていて深いコクがあり、あまりのおいしさに作業の疲れが吹き飛びました。ごちそうさまでした。梨の袋掛けは難しかったです。次にする時はもっと素早く、丁寧に行きたいように頑張りたいです。梨の袋掛け、収穫といった鳥取ならではの貴重な経験をさせていただき勉強になりました。

志谷集落の皆さんありがとうございました。



▲作業が終わってみんなでパチリ



ボランティア コレクション 2019

#私たちの最高に楽しい休日
#2019年の思い出

集落へ伝える

ありがとう特集

このページでは、お世話になっている集落の皆さんへ、私たちがもう一度言いたいありがとうの気持ちをつづっていきます。

湯谷集落のみなさんへ

湯谷集落は僕が初めてボランティアに訪れた場所です。初めてのボランティアで緊張していましたが、草集めや草刈りなど、忙しくしているうちに緊張はすぐ解けました。集落の方も優しく接して下さり、落ち着いて楽しく作業でき感謝しています。ボランティアデビューの土地が湯谷で良かったと思っています。ありがとうございます。小寺 康太



清水川集落のみなさんへ

5月の清水川集落での田植えは私にとって初めての農村16きっぷでの活動でした。少し緊張していましたが、集落の皆さんが優しく明るく出迎えて下さってとても安心しました。集落の伝説もとても興味深い、いい思い出となりました。ありがとうございます。河田 真緒



河本集落の井上さんへ

井上さんがリンゴ農家であるという話から、農園を見たいという急なお願いを聞き入れてもらいありがとうございます。農園では、果樹の管理や害虫被害など様々な事を教えていただきとても勉強になりました。帰りにいただいた黄金桃とリンゴはとてもおいしかったです。ありがとうございます。林 知輝



日下部集落のみなさんへ

ボランティアでお世話になるのは、今回が初めてだったので、快く私たちを受け入れて下さるか少し不安でした。しかしながら私たちを歓迎してく下さり、不安はかき消されていました。皆さんが温かく迎え入れて下さったおかげで私たちもボランティアを楽しむことが出来ました。これからも末永く農村16きっぷをよろしく願います。田村 岳大

芦津集落のみなさんへ

芦津集落の皆さんこんにちは！僕はシイタケの原木運びに参加しました。ビニールハウスにある原木をトラックに積んで移動するときや晩ご飯を食べるとき、面白いお話をたくさんして下さりありがとうございます！また会いに行きたいです！福田 尚寿



白坪集落のみなさんへ

8月の水路清掃が初めての白坪でしたが、集落のみなさんがフレンドリーで温かい気持ちになりました。特に子供たちと川で遊んだり、公民館でかくれんぼをしたり、楽しい時間を過ごせたことは忘れられません。子供たちが集落のこんな豊かな自然の中で過ごせることは素敵だなあと思いました。白坪のみなさん、素敵なひとときをありがとうございます！奥田 智



お世話になっている集落の皆様へ

いつも温かく受け入れていただきありがとうございます。ここにはたった7集落への思いしか載せられていませんが、私たちはどこか懐かしい全ての集落が大好きです。これからも農村16きっぷをどうぞよろしくお願いいたします。

山路集落のみなさんへ

山路集落へボランティアに行った時、集落のおばあちゃんが「また会えて、嬉しいよ〜」と優しく迎え入れてくれて、来てよかったなと強く思いました。また、作業や交流会の際には集落の現状についても教えて下さいました。これは地域課題を学んでいる私にとって大変いい勉強となりました。ありがとうございます。福園 佳恭

